

| | | | |
|--|--|-------------------------|--------------------------|
| SUZ-027 | 資料の出典（資料名、著者、巻、号、頁など） X 社社内報告（非公開）（1988）. | | 本資料の 作成者名 鈴木紹夫 |
| 整理番号 91 | 資料のタイトル FRP 製貯槽の劣化損傷事例と解析 | | |
| 失敗事例のタイトル タンク密閉状態での給液による加圧破損 | | | 一次原因（材料要素） 破壊、割れ |
| 機種 貯槽、常圧貯槽、FRP タンク、 円筒形タンク | 部品 槽下部基底への固定リ ブ部付近 | 材料 FRP ビニルエステル 樹脂 | 概略の寸法 25KL |
| 損傷発生時の状況 FRP 製廃液貯槽の下部、基底への固定リブ付近、液抜きノズルコーナーR 部、同ノズル付け根が割れ、破損した。 | | | |
| 調査内容とその結果 通常に比べ大量の廃液が流入し、エキゾーストからあふれた。その際、廃液中のゴミがエキゾースト出口に取りつけられていた金網（鳥の進入防止用）に詰まり、槽が密閉状態になっていた。 | | | |
| 損傷発生のシナリオ エキゾースト出口が詰まったため給液により槽内が加圧状態になった。このため槽下部周辺、基底部への固定リブ付近が浮き上がり、リブ付近が破壊した。 | | | |
| 対策（損傷発生時にとられた対策あるいは現在とるべきと考えられる対策） (1)破損部を FRP の積層により補修した。(2)エキゾーストラインの出口にあった金網を取り外した。(3)パトロールを強化した。 | | | |
| 教訓 FRP タンクにおけるエキゾースト管理の重要性を再認識した。 | | | |
| 備考 | | | |
| 主要因 | | 教訓とすべき対象者 | |
| チェックボックス | | チェックボックス | |
| | 当時の技術レベルでは不可抗力 | | 設計者 |
| | 情報伝達不備・不足 | | 製作者 / 建設担当者 |
| ○ | 担当者不勉強 / 教育不十分 / 意識不足 | | 検査者 |
| | 指示ミス | ○ | 使用者 |
| | うっかり、ぼんやり | | メンテナンス者 |
| | その他 | | その他 |